

サヌカイト演奏会

1月17日にこもれびホールにてサヌカイト演奏会が開かれました。サヌカイトとは黒色で緻密な組織を持つ安山岩の一種で、叩くとカンカンと音を出すためカンカン石とも呼ばれるそうです。今回坂出市の金山から採れた石で、サヌカイト演奏の第一人者の小松玲子さんとマリンバ・パーカッション演者の合田佳織さんに12曲演奏していただきました。会場には入院患者さんや職員が参加しインフルエンザが流行していたこともあり院内テレビでも配信が行なわれ、会場に来られない入院患者さんも楽しみました。サヌカイト演奏はとてもやさしくきれいな音色で心が引き込まれました。参加した皆さんリラックスができ心が浄化されるような体験したことと思います。



ピアノ演奏会

3/21

ピアニストの竹野安子さんとその教え子の安田葵さんが、演奏会を開催してくださいました。

竹野さんは当院の臨床研究部長の吉田守美子先生からのご紹介で当院のアートボランティアメンバーになってくださった方です。

当日はお二人とも美しいドレスに身を包んで登場されました。ピアノを連弾される様子にスタッフは「まるで天女のようだねー」と感激していました。

事前にリストを聞いてくださったこともあり、大好きな曲が演奏されて、重心病棟の入所者さんはそれぞれに全身で喜びを表現されていました。美しい音の流れを、全身全霊で受け止めようとしている。という印象でした。

かけがえのない時間をお届けいただき本当にありがとうございました。

スタッフ一同心より感謝申し上げます。



独立行政法人 国立病院機構

四国こどもとおとなの医療センター

〒765-8507 善通寺市仙遊町 2-1-1 TEL 0877-62-1000 <https://shikoku-mc.hosp.go.jp>
交通機関 ▼善通寺ICより車で5分 ▼JR土讃線善通寺駅下車徒歩25分

発行日 / 令和7年4月1日

発行者 / 前田 和寿

編集委員 / 広報委員会



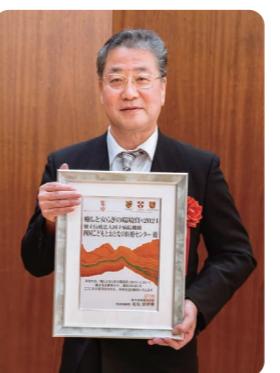
独立行政法人 国立病院機構
四国こどもとおとなの医療センター

こもれび通信

Shikoku Medical Center for Children and Adults®

光と影、人物と植物、バランスを保ちながら循環する命の恵が、全ての人をこもれびのようにやさしく包み込みますように…

坂のサントリーホールで開催され、前田和寿院長が表彰状を受け取りました。授賞式の後、お祝いのオペラが披露されました。クリスマスを前にした東京はイルミネーションで煌びやかに装飾され、まるで街全体が祝福してくれているかのようでした。前田院長はこの賞を励みに院内、そして地域と共にアートを介してさらにより良い病院を育てていきたい。この賞は、これまで当院を愛し、共に育ててくださったたくさんの方々への賞です。と語られました。



当院の受賞理由は人工的な空間になりがちな医療現場に、アートを介して自然のエネルギーを取り入れるというコンセプトで、病院が建設された後も、医療スタッフとクリエイター、地域住民が共にアイデアを出し合い、病院が進化し続けている。という点が評価されました。

12月8日の表彰式は東京赤



写真提供：集中出版

アジア国際小児医療学会 《AMCCH》開催

アジア国際小児医療学会 (Asian Medical Conference on Child Health : AMCCH) は、当院とタイの Queen Sirikit National Institute of Child Health との国際協力提携のもと、2015年から開催されてきましたが、2020年以降は新型コロナウイルス感染症のために開催が見送られていました。今回、2025年1月18日(土)にAMCCH2025が5年ぶりに当院のこもれびホールにて開催されました。タイから5名の医療者をお迎えし、香川大学医学部附属病院か

らもご参加いただき、口演発表(4演題)とポスター発表(17演題)が行われました。院内の発表者、聴講者を含め多数の方が参加して学術交流を行いました。



地域と病院をつなぐ Healing Garden Project

ホスピタルアート講演会

「よりよい病院づくり」をめざす四国こどもとおとな医療センターが、開院以来約10年にわたり大事にしてきたホスピタルアートの営み。

院内の医療スタッフ、院外のボランティアが共に育ってきたこの営みを、地域へ広げる「Healing Garden Project」が、いよいよスタートしました。

まず地域への啓発活動として、3月8日、9日、いなほ珈琲(レストラン)2階にて、森合音さんと山口智恵子さんによる「ホスピタルアート講演会」がおこなわれました。

対象者は、内閣府認定の社会教育団体「SYD」の「ボランティア・アクション in瀬戸内海」の研修に参加した、医療や福祉に関心を寄せる中学生・高校生・大学生20名および地域の方3名。

森さんは、ホスピタルアートディレクターとして、当院がホスピタルアートを導入したきっかけや、当院独自のホスピタルアートのありかたについての講話を、山口さんは管理課の職務の傍ら手がけてきた屋上庭園の癒しの力についての講話をされました。

参加者からは、ときおり共感の声がもれ、熱心にメモをとる姿が見られました。

以下、参加者の感想の一部を紹介します。

●病院はシンプルで、患者を治療するための場所と認識している病院が多々ある中、アートで、患者のみならず、病院で働く人、患者の家族といったあらゆる人の心のサポートをすることも重要視しており、こんな病院があるんだ！と衝撃を受けました。

大学2年生



●病院でのアートの必要性に気づきました。

高校1年生

●アートは人の心に癒しを与える、その心にできたゆとりから次の人にへと癒しを与えていくという幸福な循環が発生する、素敵なものであることに気付きました。匿名で、入院している子どもたちにプレゼントを渡す取り組み(「ニッチ」)に感銘を受けました。私のプレゼントが誰かの笑顔に繋げられたら、素直に心の底から嬉しいです。

大学2年生

●森先生のお話の中に、「密かな思いやりの循環」という言葉があったのですが、誰かが誰かを思いやると、思いやりを受け取った人が、また他の人に渡してと、良い循環ができる、それが途切れることなく今に至るまで続いていると考えると、とてもすごい話だなと思いました。私も今までもらってばかりだった思いやりを、他の誰かに渡してあげたいと思いました。

高校2年生

●ホスピタルアートは全ての人に向けたアートであり、病院をより快適な場所に導くものだと分かった。

大学1年生

●「アートは多元的な効果をもたらす」や「ボランティアは自己と利他のバランスが大事」ということが分かった。

高校3年生

●病院のアートは祈りの形ということや、アートがきっかけで病院関係者だけではなく、患者さんたちにも変化があることを学んだ。またアート活動は、短期的ではなく長期的な視点で取り組む問題解決の活動であることが、すごく印象的だった。

高校2年生



// あたたかい気持ちの詰まった贈り物 //



●ホスピタルガーデナーさんのお話では、植物の芽吹きはエネルギーを与えること、また屋上庭園が病室とは違う居場所になり安らぎを与えていることが印象的だった。他にも、屋上庭園で収穫体験をしているという、ユニークかつ病院内のコミュニケーションを育もうとする姿勢に感銘を受けた。 大学1年生

講演会のあと、みんなは、「ニッチ」に入れるために、一人ひとり手作りしてきた贈り物にメッセージを書き添えて、森さんに託しました。

会の記録写真を撮っていた私は、そのメッセージを書く温かい表情や、贈り物を袋に入れる優しい手つきに感動を感じました。

この温かさ、優しさが、癒しのエネルギーとなって病院中をかけめぐってゆくんだなあと思いました。

ホスピタルアートの種子が、約10年の時満ちて医療センターから飛翔する、そのふわふわとした綿毛につつまれたような一時間半でした。

屋上庭園ボランティア 山地千晶



1 病院のココが自慢

前身为小児病院であり、小児医療に強いところ

2 患者さんと接する時に大切にしていること

身体的、精神的な負担をなるべく減らすこと

3 医師になろうと思ったきっかけは？

子供関連の活動に中学で携わっていて、高校の時に小児関連の仕事を考えた時に教育より医療の分野でかかわりたいと思ったから

4 もし、医師になっていなかったら？

実家を継ぐ(薬局)、研究者、サラリーマン

5 先生が実施している健康法は？

ランニング

6 当院に期待すること

軽症から重症まで香川の小児医療の中心的役割

7 どっち？

犬派

猫派

和食

洋食

朝食は

インドア派

休日は アウトドア派

8 好きなもの(こと) Best 3!

1 漫画

2 温泉

3 運動

9 フリースペース

初の西讃での勤務でドキドキしています。
体重は年に5kgくらいの幅で上下しますが腹団はあまり変わらないです。